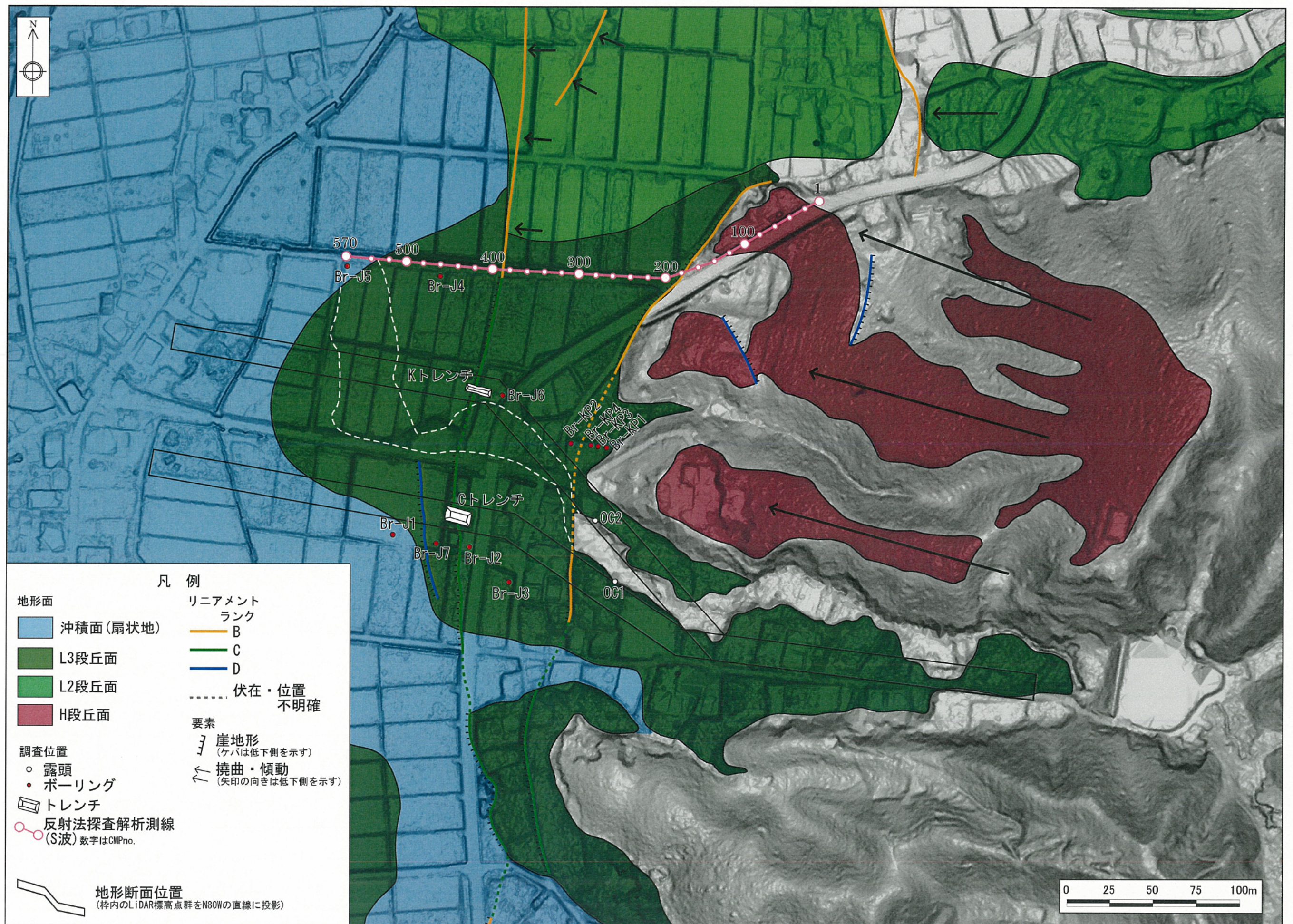




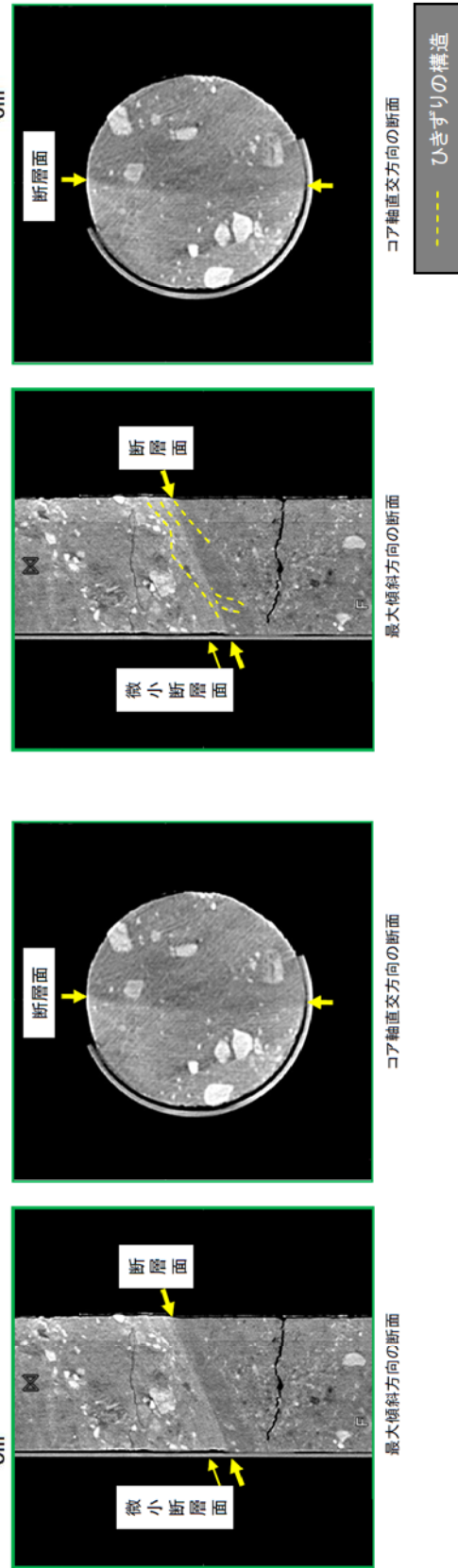
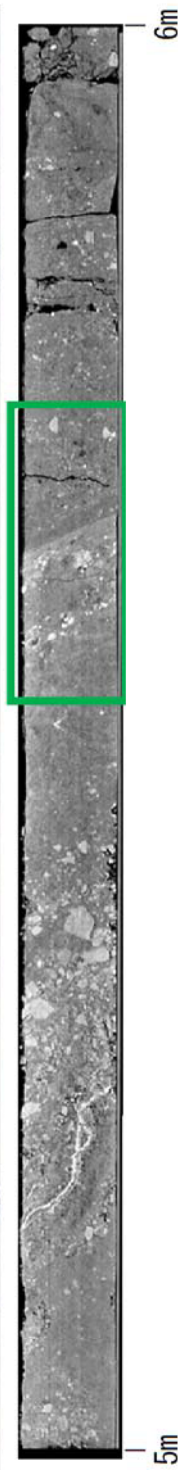
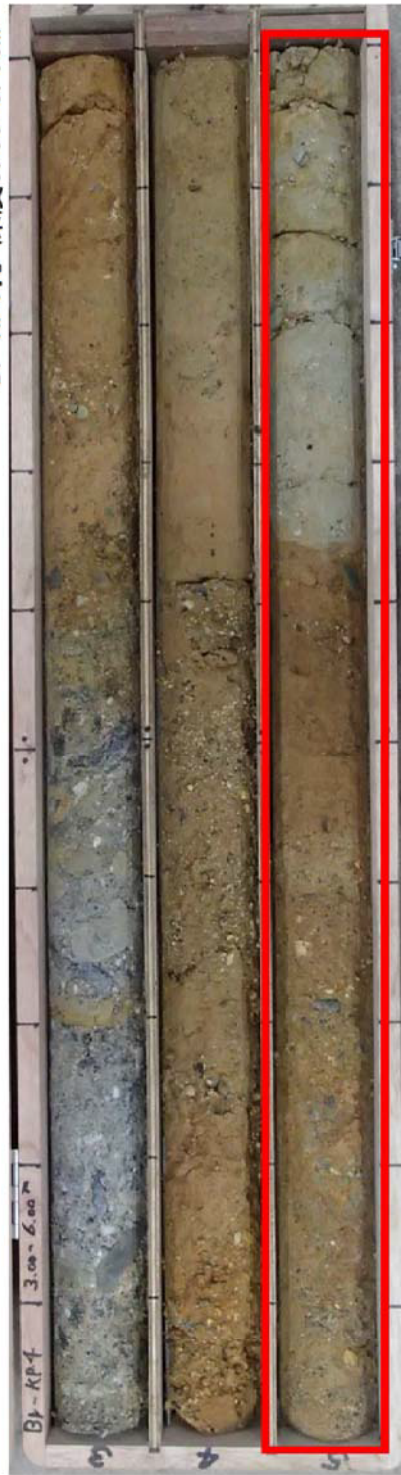
第1. 3. 180図 三方断層 成願寺付近の調査位置図







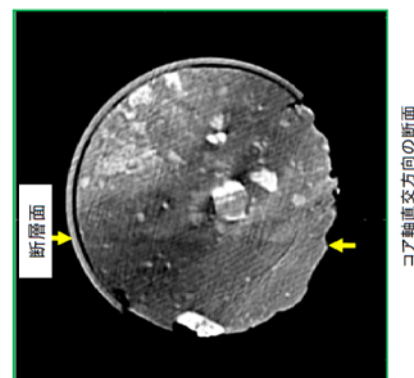
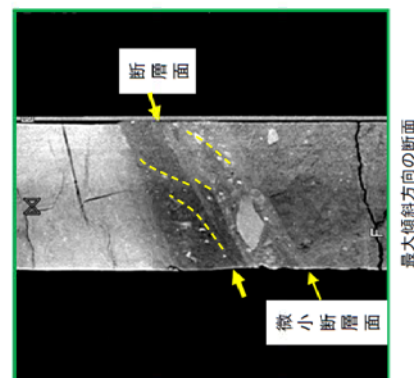
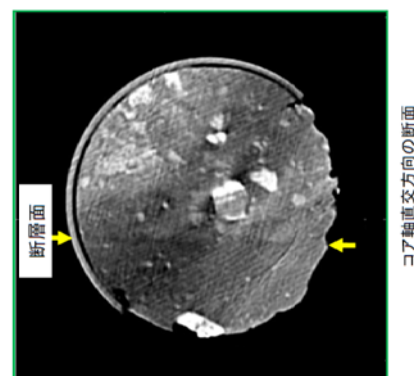
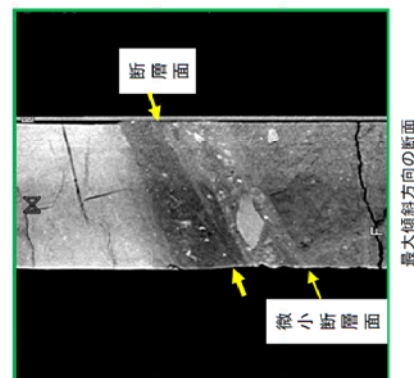
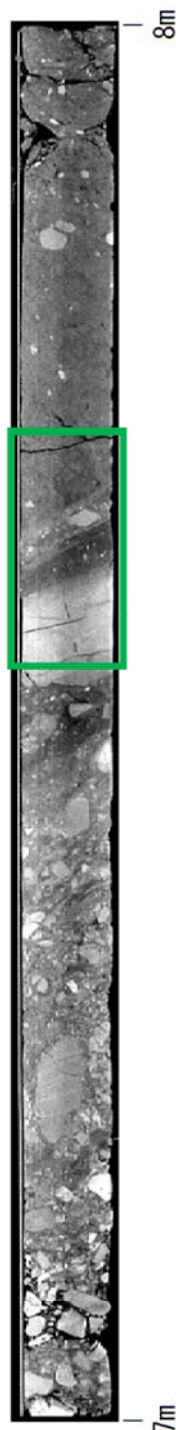
Br-KP4孔 深度5.00-6.00m



- ・逆断層成分を示す変形指標が顕著である。断層面が低角であるため、横ずれ成分は不明瞭。
- ・断層面を挟んだ幅2cmで変形指標が顕著である。断層面周辺には微小な断層面が認められる。断層面の下盤側には幅1cm程度の低密度部が認められる。

第 1.3.182 図(1) 三方断層 成願寺付近のボーリング調査結果(1)

Br-KP3孔 深度7.00-8.00m



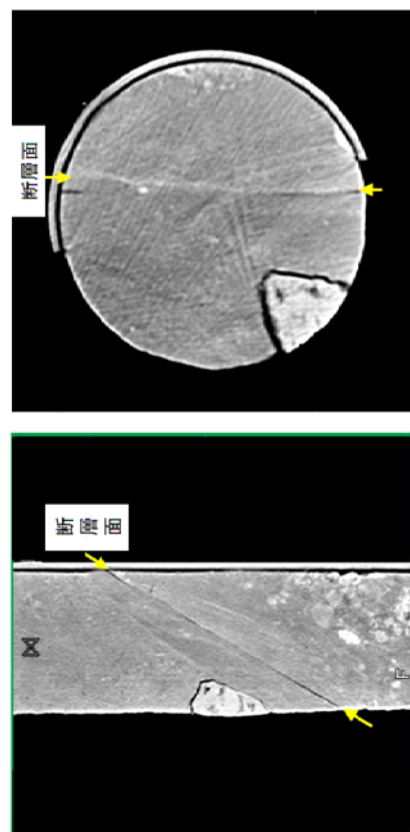
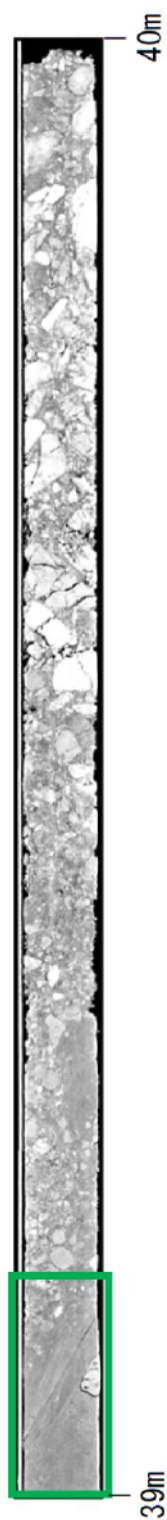
ひきずりの構造

- ・逆断層成分を示す変形指標が顕著である。断層面が低角であるため、横ずれ成分は不明瞭。
- ・断層面を挟んだ幅約5cmで変形指標が顕著である。断層面周辺には微小な断層面が認められる。断層面上盤側に幅10cm程度の低密度部が認められる。

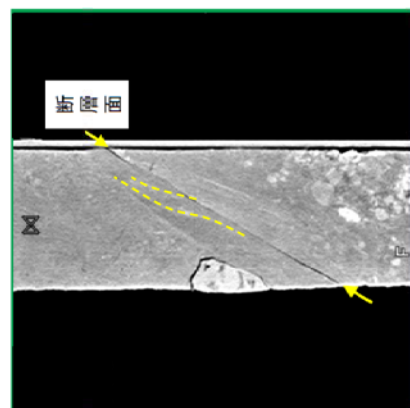
第 1.3.182 図 (2) 三方断層 成願寺付近のボーリング調査結果 (2)



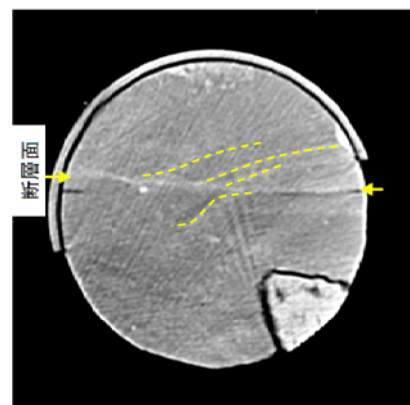
Br-J6孔 深度39.00～40.00m



コア軸直交方向の断面



最大傾斜方向の断面



コア軸直交方向の断面

ひきずりの構造

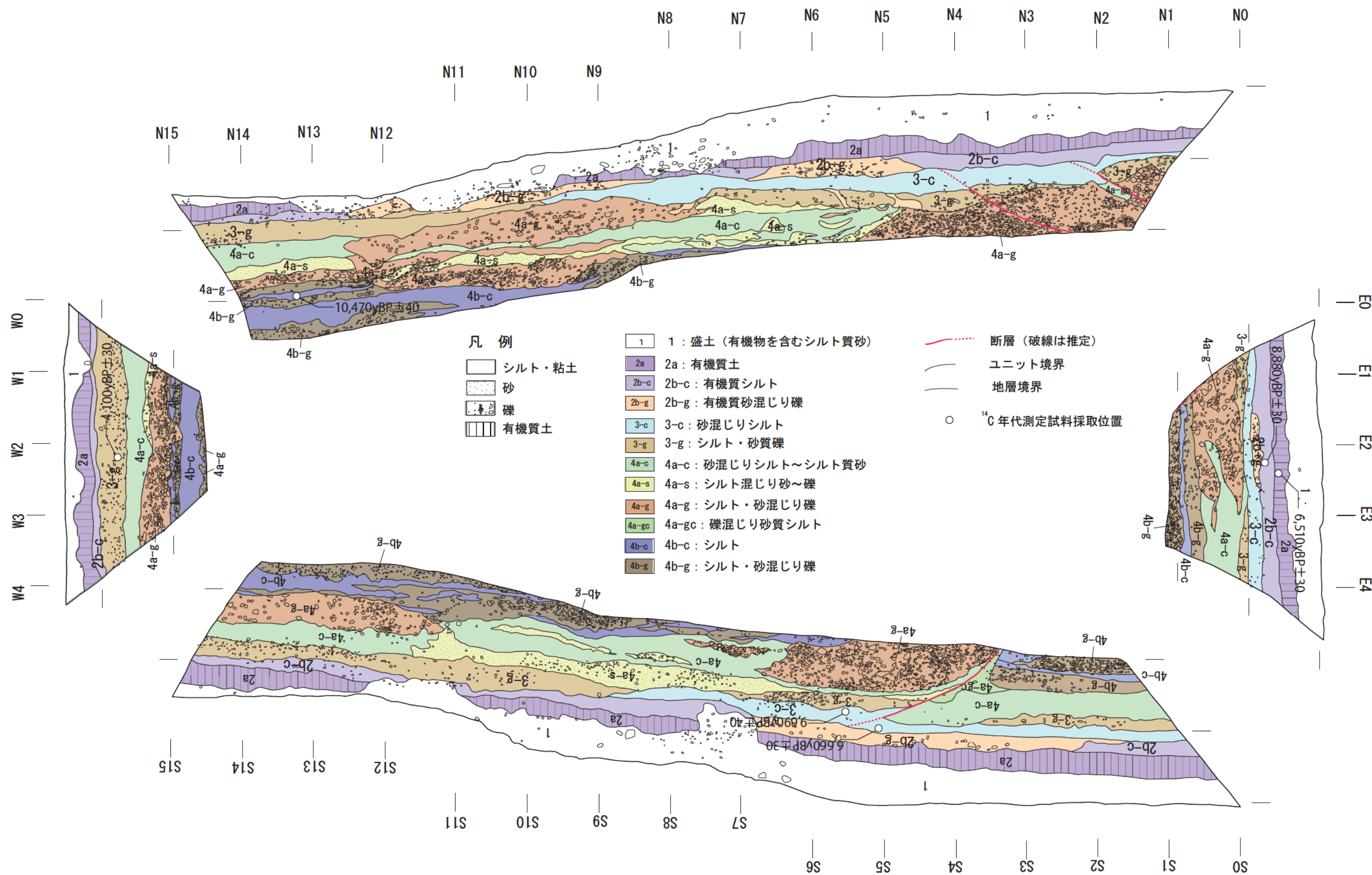
•堆積物中に明瞭な断層が認められ、CT観察の結果、右横ずれ逆断層成分を示す変形指標が認められる。

•主断層面上盤側1cm～2cmの範囲で変形指標が明瞭である。断層近傍3cm～4cmで密度が低下する。断層面の下盤側30cmの範囲で砂礫が高角度に傾斜している。



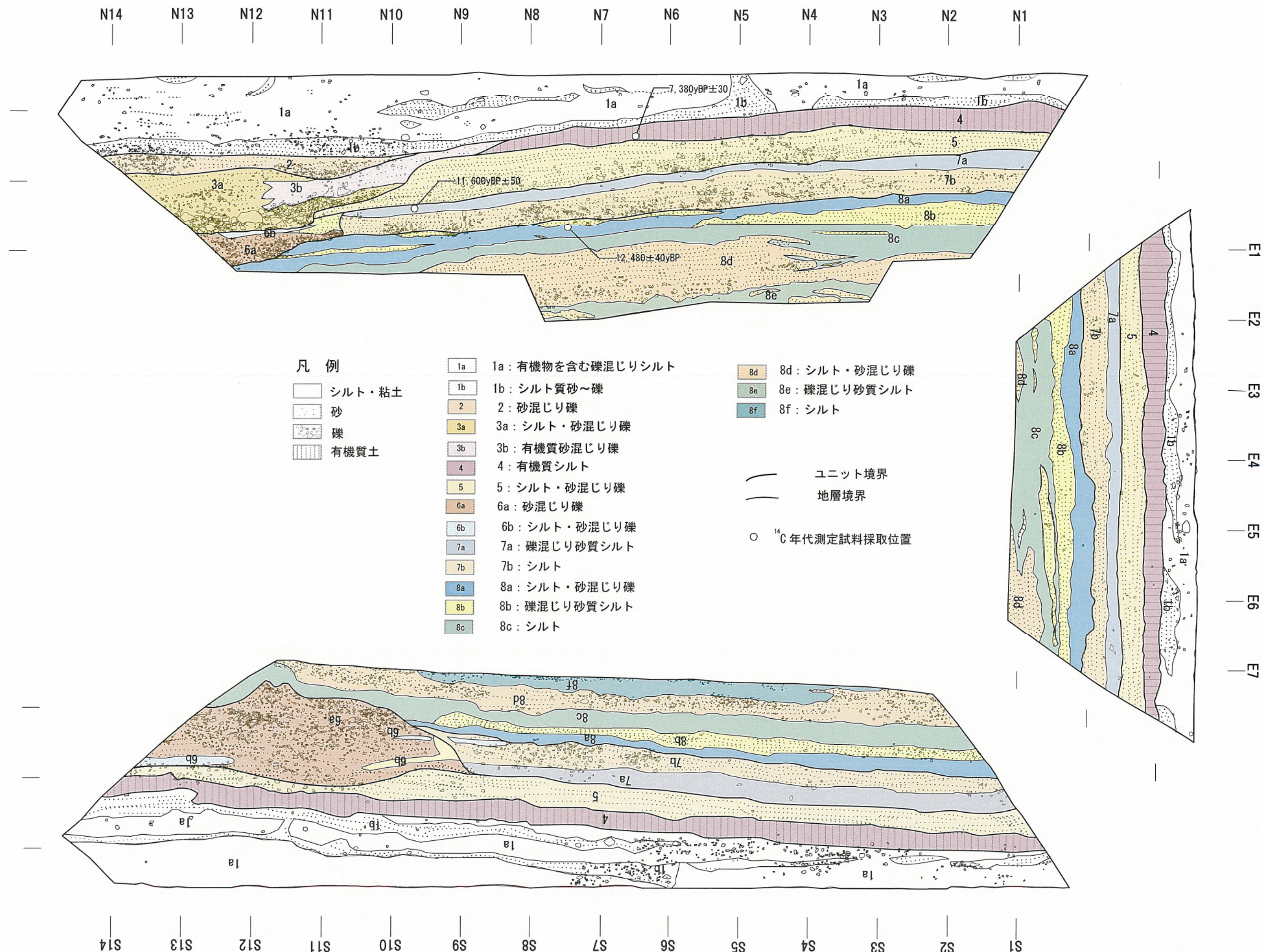






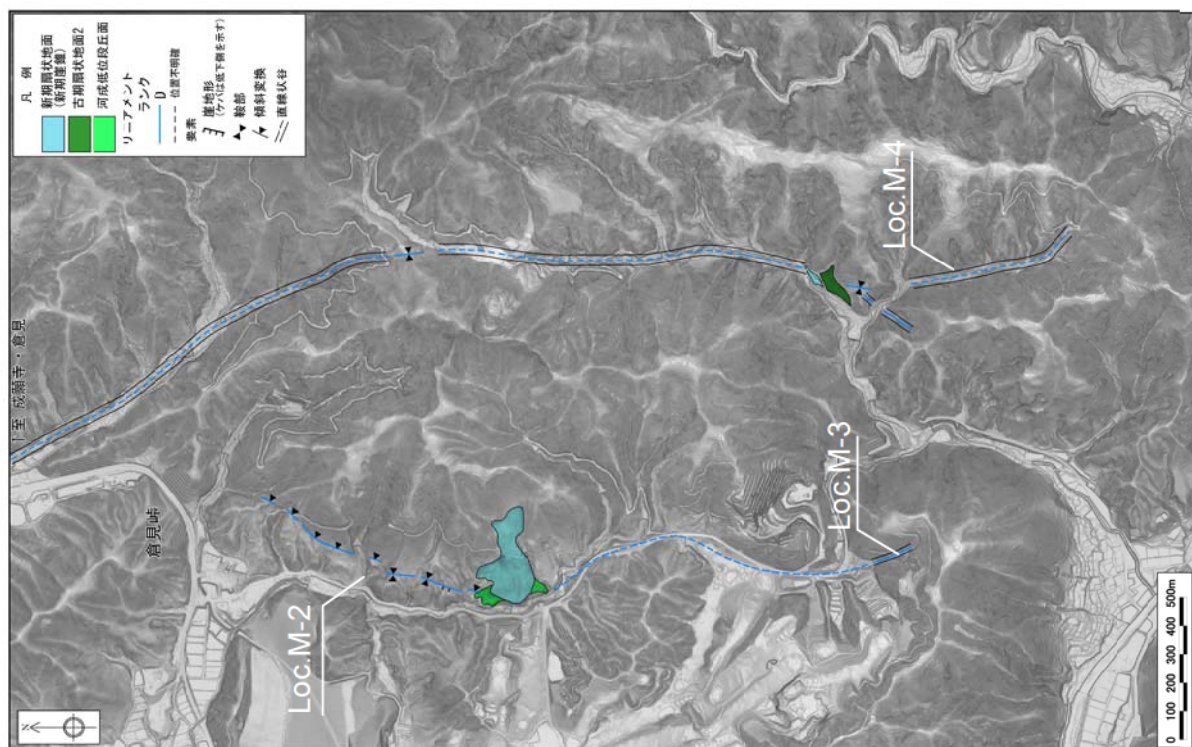
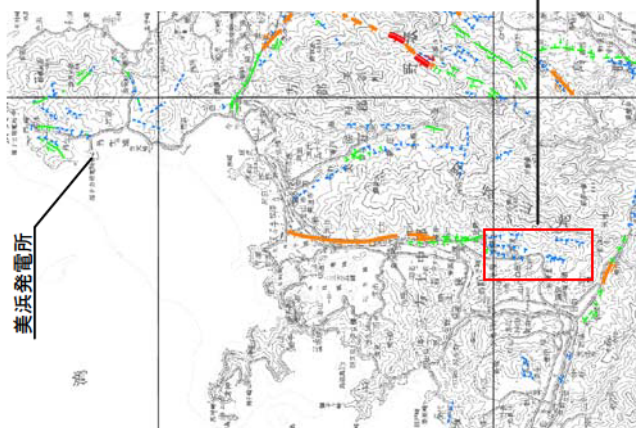
第1.3.184図 三方断層 成願寺付近のトレンチ調査結果 (Kトレンチ)





第1.3.185図 三方断層 成願寺付近のトレンチ調査結果（Cトレンチ）



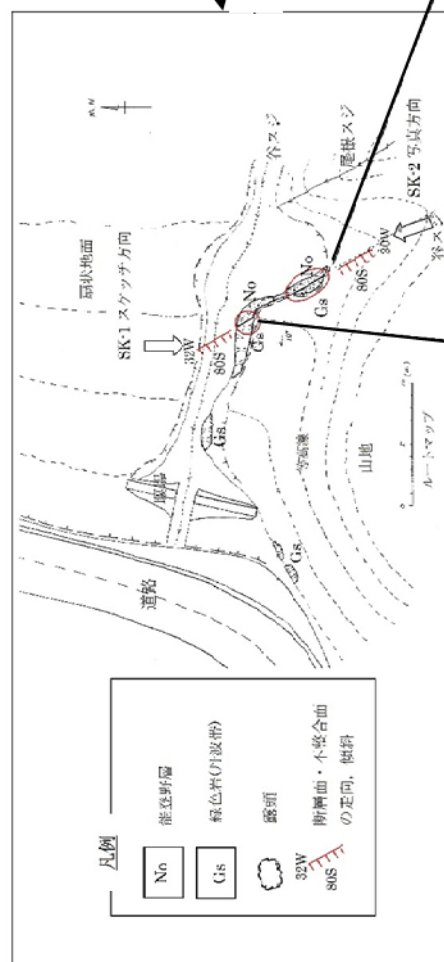
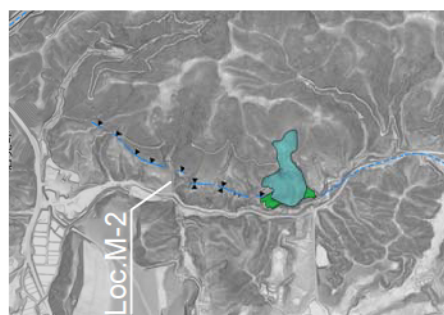


- 三方セグメント南端付近において、航空レーザー測量によるDEMを用いた詳細な地形判読を実施した。
- 倉見峠付近から南方では、リニアメントが東西2条に枝分かれする。
- 2条のリニアメントの直下 (Loc.M-3、M-4) 及び直下付近 (Loc.M-2) において地表地質調査を実施した。

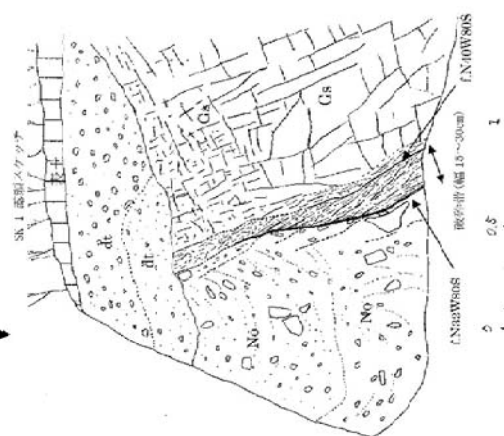
第 1.3.186 図

三方断層南端付近 航空レーザー測量により作成した地形図





SK-2 露頭写真



SK-1 露頭スケッチ



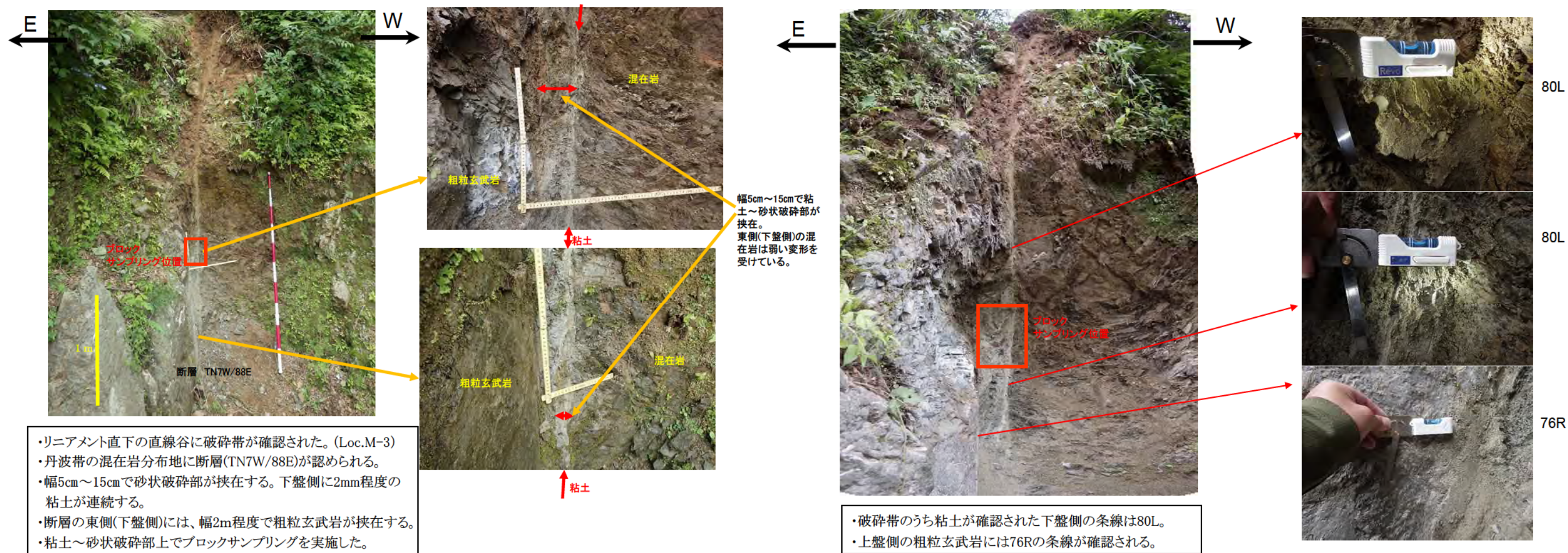
・リニアメント直下付近に逆断層露頭 (Loc. M-2) が認められた。

・断層を挟んで下盤側に能登野層、上盤側に緑色岩 (丹波帯) が分布。断層は崖堆積物に覆われる。

・破砕帯は主に緑色岩中に認められ、幅約15cm～約30cmの砂状破砕部で、褐色に風化している。下盤側に約2mm～約10mmの褐色粘土を伴う。断層面は下盤側で比較的に明瞭であるが、直線性に乏しく、上部で不明瞭となっている。

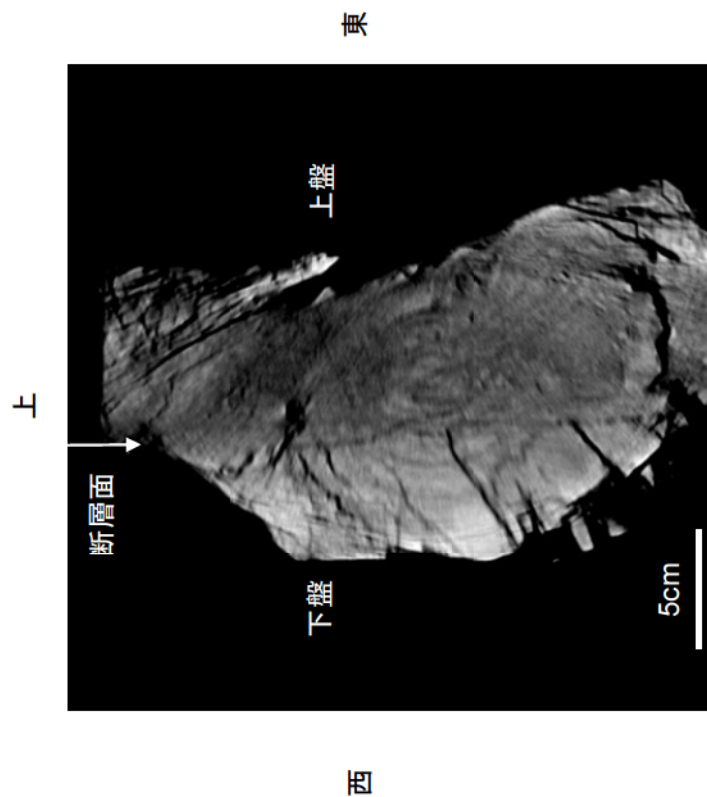
・断層面の走向はN30Wで、傾斜は高角度南落ちである。能登野層中の礫は断層付近で上方へドラッグされており、逆断層センスの運動方向も想定される。



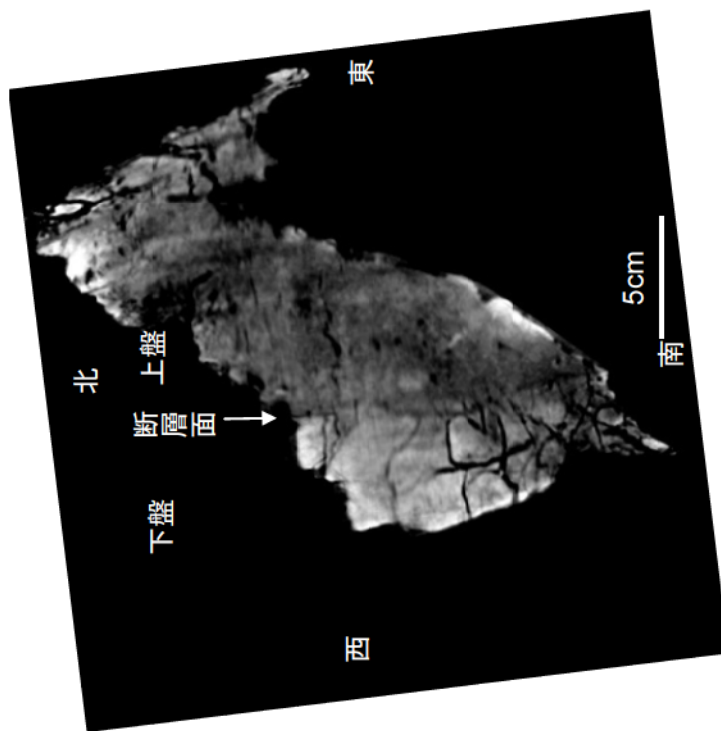


第 1. 3. 188 図 三方断層 新道北方の露頭写真 (Loc. M-3)





下 正面図



水平図

本試料についてはサイズが大きく、CTスキャナーの仕様により、画像の鮮明さに影響している可能性があります。

断層の走向傾斜: TN7W/88E

縦ずれ成分: 正断層、横ずれ成分: 右横ずれ

断層面はブロック中央部に認められる。

断層面に沿って幅2mm程度の低密度部が認められる。